



エンドユーザの管理

- [エンドユーザの管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [エンドユーザーのタスクフローを管理する \(3 ページ\)](#)
- [プレゼンスの連携動作と制限事項 \(15 ページ\)](#)

エンドユーザの管理の概要

IM and Presence Service ノードへユーザを割り当て、エンドユーザを IM and Presence Service 用に設定する手順については、次のガイドを参照してください。

エンドユーザを管理するための管理タスクの一部として、次のタスクを管理しなければならない場合があります。

- [プレゼンス要求を承認するためのデフォルトポリシーを設定する](#)
- [重複または無効なユーザー ID とディレクトリ URI に対するスケジュールされたシステムチェックを設定する](#)
- [ユーザー ID とディレクトリ URI の問題が発生したらそれらを修正](#)

エンドユーザーをインポートして設定する方法の詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Configure End Users」のセクションを参照してください。

ユーザ連絡先リストの一括インポートおよびエクスポートの完了については、[連絡先リストの一括管理](#)を参照してください。

プレゼンス認証の概要

プレゼンスサブスクリプション要求にはシステム認証ポリシーを割り当てる必要があります。プレゼンス認証ポリシーは、システムレベルで、プレゼンスが要求されているエンドユーザの認証を必要とせずに、システム上のエンドユーザが他のエンドユーザのプレゼンスステータスを表示できるかどうかを決定します。この設定は**プレゼンス設定**設定ウィンドウにある**承認を求められることなくユーザが他のユーザの在席状況を確認できる**チェックボックス経由で設定できます。空き時間の設定は展開されているプロトコルによって部分的に異なります。

- SIP ベースのクライアントの場合、すべてのプレゼンス登録要求を自動的に承認するように IM and Presence サービスを設定する必要があります。そうしないと、プレゼンスは正しく機能しません（これがデフォルト設定です）。このオプションが設定されている場合、IM and Presence サービスは1つの例外を除いてすべての要求を自動的に承認します:参加がリクエストされているユーザーが、そのリクエストをしたユーザーを含む Cisco Jabber クライアントに設定されたブロック済リストを持っている場合。この場合、ユーザはプレゼンス要求を承認するように促されます。
- XMPP ベースのクライアントの場合、IM and Presence サービスで他のユーザからのプレゼンス要求を承認するようにユーザに要求するかどうか、またはそれらのプレゼンス要求を自動的に承認するかどうかを設定できます。



(注) 認証システム設定は、エンドユーザが Cisco Jabber クライアント内で設定できるユーザポリシー設定によって上書きされる可能性があります。

Jabber のユーザポリシー設定

プレゼンス要求を承認するとき、IM and Presence サービスは、ユーザが Cisco Jabber クライアント内で設定したユーザポリシーも参照します。エンドユーザは他のユーザをブロックリストに追加して他のユーザが許可なしにプレゼンス状態を表示できないようにしたり、許可リストに追加して自分のプレゼンス状態の表示を許可することができます。これらの設定はシステムのデフォルト設定を上書きします。

エンドユーザは、Cisco Jabber クライアント内で次のものを設定できます。

- ブロックリスト - ユーザは他のユーザ（ローカルユーザと外部のユーザーの両方）をブロックリストに追加できます。拒否されているユーザの任意のユーザがプレゼンスを見る場合、ユーザの実際のステータスに関係なくユーザのプレゼンスステータスは常に空いていないと表示されます。ユーザはフェデレーションドメイン全体を拒否することもできます。
- 許可リスト - ユーザは、他のローカルユーザおよび外部のユーザーがいつでも自分の在席状況を表示できるようにすることができます。外部（フェデレーション）ドメイン全体を許可することもできます。
- [デフォルトポリシー（Default policy）] : そのユーザのデフォルトポリシー設定。ユーザは、すべてのユーザを拒否するか、すべてのユーザを許可するようにポリシーを設定できます。

ユーザー ID とディレクトリ URI の検証

単一クラスタ展開の場合、同じクラスタ内で重複を割り当てることはできないため、重複したユーザー ID とディレクトリ URI は問題になりません。ただし、クラスタ間配置では、異なるクラスタの異なるユーザに意図せずに同じユーザー ID またはディレクトリ URI 値を割り当てる可能性があります。

IM and Presence サービスには、重複するユーザー ID と重複するディレクトリ URI を確認するための次の検証ツールがあります。

- **Cisco IM and Presence データモニタサービス**：このサービスを使用して継続的なシステムチェックを設定できます。Cisco IM and Presence Data Monitor サービスは、Active ディレクトリ エントリで、すべての IM and Presence Service クラスタの重複ユーザー ID および重複、または、空のディレクトリ URI をチェックします。管理者にはアラームまたはアラートで通知されます。Cisco Unified Real-Time モニタリングツールを使用して、アラームを監視し、Duplicate UserID および DuplicateDirectoryURI エラーに関する電子メールアラートを設定できます。
- **システムトラブルシューティングツール-ディレクトリの URI やユーザー ID の重複など**、アドホックにシステムのエラーチェックを実行する場合は、システムトラブルシューティングツールを使用します。Troubleshooter は、最大 10 人のユーザにのみ詳細を提供します。システムトラブルシュータには Cisco Unified CM IM and Presence の管理インターフェイスから、**[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)]** からアクセスできます。
- **コマンドラインインターフェイス - 重複した URI とユーザー ID の完全で詳細なレポート**を入手するには、utils ユーザがすべて検証する CLI コマンドを実行します。

エンドユーザーのタスクフローを管理する

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	プレゼンス認証ポリシーを割り当てる (4 ページ)	プレゼンスサブスクリプション要求にシステム認証ポリシーを割り当てます。
ステップ 2	ユーザデータに対するデータモニタチェックの設定 (5 ページ)	重複ディレクトリ URI およびユーザー ID に対して定期チェックを実行するように Cisco IM and Presence データモニタサービスを設定します。問題が見つかったら、システムアラームまたは警告が発生します。
ステップ 3	システムトラブルシューターを介してユーザデータを検証する (7 ページ)	重複したディレクトリ URI やユーザー ID など、システムの問題について特別チェックを実行する場合は、システムトラブルシュータを実行します。
ステップ 4	CLI を介してユーザー ID とディレクトリ URI を検証する (8 ページ)	CLI コマンドを実行して、重複するディレクトリ URI とユーザー ID の詳細レポートを取得します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	ユーザのプレゼンス設定を表示 (12 ページ)	IM and Presence 対応のエンドユーザのプレゼンス設定を表示したい場合は、プレゼンスビューアを使用してそれらの設定を表示できます。

プレゼンス認証ポリシーを割り当てる

プレゼンスサブスクリプション要求にシステム認証ポリシーを割り当てます。



- (注) Cisco Jabber クライアントでは、エンドユーザは他のユーザが自分のプレゼンスステータスを表示できるようにするかどうかを設定できます。このユーザポリシーはシステム許可設定を上書きします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[プレゼンス (Presence)] > [設定 (Settings)] を選択します。

ステップ 2 [承認を求められることなくユーザが他のユーザの在席状況を確認できる (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)] チェックボックスにチェックする、またはチェックを外します。

- チェック済 - IM and Presence は、ローカル企業内で受信するすべてのプレゼンス登録要求を許可します。
- 未チェック - IM and Presence は、プレゼンスが要求されているクライアントに対して、すべてのプレゼンス購読要求を参照します。ユーザは、要求を受諾または拒否できます。

(注) SIP ベースのクライアントを展開している場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。チェックボックスをオフのままにした場合、展開はXMPPクライアントのみをサポートします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 Cisco XCP Router サービスを再起動します。

次のタスク

IM and Presence サービスの SIP パブリッシュ トランクの設定に進みます。

ユーザデータに対するデータモニタチェックの設定

スケジュールされた間隔でディレクトリ URI とユーザー ID を検証するように Cisco IM and Presence データモニタを設定するには、次の作業を実行してください。エラーが発生した場合は、アラームまたはアラートを介して Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool に通知されます。



(注) ディレクトリ URI の重複とユーザー ID の重複のエラーは、クラスタ間展開でのみ問題になります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザー ID とディレクトリ URI 検証チェックのスケジュール設定 (5 ページ)	Cisco IM and Presence データモニタチェックのスケジュール間隔を設定します。このサービスは、重複するディレクトリ URI やユーザー ID を含む、アクティブディレクトリエントリのエラーをチェックします。
ステップ 2	電子メールアラート用の電子メールサーバをセットアップします。 (6 ページ)	これはオプションです。Data Monitor サービスが重複するディレクトリ URI またはユーザー ID を検出したときに Eメールアラートを受信したい場合は、リアルタイム監視ツールを使用して Eメールサーバを設定する必要があります。
ステップ 3	電子メールアラートの有効化 (7 ページ)	これはオプションです。DuplicateDirectoryURI および DuplicateUserid アラームの電子メール警告を有効にするには、この手順を実行します。Cisco IM and Presence データモニタサービスがこれらのアラームのいずれかを返すと、電子メールが管理者に送信されます。

ユーザー ID とディレクトリ URI 検証チェックのスケジュール設定

Cisco IM and Presence データモニタサービスのスケジュール間隔を設定します。このサービスは、重複するディレクトリ URI やユーザー ID など、データエラーについてスケジュールされた間隔でシステムをチェックします。このサービスは、エラーが見つかったときはいつでもリアルタイム監視ツールを介して表示できるアラームまたは警告を発します。

電子メールアラート用の電子メールサーバをセットアップします。

始める前に

Cisco IM and Presence データモニタネットワークサービスが実行されている必要があります。デフォルトにより、このサービスは実行されます。このサービスが Cisco Unified IM and Presence Serviceability インターフェースの [コントロールセンター - ネットワークサービス (Control Center - Network Services)] ウィンドウから実行されていることを確認できます。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
 - ステップ 2 [サービス (Service)] ドロップダウンで、[Cisco IM and Presence データ モニタ (Cisco IM and Presence Data Monitor)] を選択します。
 - ステップ 3 [User Check Interval] フィールドで、時間間隔を入力します。5 から 1440 (分) までの整数を入力できます。デフォルト値は 30 分です。
 - ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

これはオプションです。DuplicateDirectoryURI または DuplicateUserid アラームが発生したときに電子メール警告を設定したい場合は、[電子メールアラート用の電子メールサーバをセットアップします。](#) (6 ページ)

電子メールアラート用の電子メールサーバをセットアップします。

データモニタの検証チェックでディレクトリ URI とユーザー ID の重複エラーが検出された場合は、管理者に電子メールによる警告を受信させると便利です。その場合は、このオプションの手順を使用して、E メールアラート用に E メールサーバをセットアップします。

手順

-
- ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool のシステム ウィンドウで、[アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - ステップ 2 [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メールサーバの設定 (Config Email Server)] の順に選択します。
 - ステップ 3 [メールサーバ設定 (Mail Server Configuration)] ポップアップで、メールサーバの詳細を入力します。
 - ステップ 4 **OK** をクリックします。
-

次のタスク

[電子メールアラートの有効化 \(7 ページ\)](#)

電子メールアラートの有効化

この手順を使用して、DuplicateUserID または DuplicateDirectoryURI システムアラートが発生したときに管理者に電子メールを送信するようにリアルタイム監視ツールを設定します。

始める前に

[電子メールアラート用の電子メールサーバをセットアップします。 \(6 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool の [システム (System)] 領域で、[アラート セントラル (Alert Central)] をクリックします。
 - ステップ 2 クリック **IM** と **プレゼンスタブ**。
 - ステップ 3 E メールアラートを追加したいアラートをクリックします。例えば、**DuplicateDirecctoryURI** または **DuplicateUserid** システムアラート
 - ステップ 4 [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート アクションの設定 (Config Alert Action)] の順に選択します。
 - ステップ 5 [アラート アクション (Alert Action)] ポップアップで、[デフォルト (Default)] を選択して、[編集 (Edit)] をクリックします。
 - ステップ 6 [アラート アクション (Alert Action)] ポップアップで、受信者を追加します。
 - ステップ 7 ポップアップ ウィンドウで、電子メールアラートを送信するアドレスを入力して、[OK] をクリックします。
 - ステップ 8 [アラート アクション (Alert Action)] ポップアップで、アドレスが [受信者 (Recipients)] に表示されていることと、[有効 (Enable)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
 - ステップ 9 **OK** をクリックします。
 - ステップ 10 この手順、電子メール警告を有効にしたいシステム警告ごとに繰り返します。
-

システムトラブルシューターを介してユーザデータを検証する

Cisco Unified CM IM and Presence 管理 GUI のシステムトラブルシューターを使用することで、重複ユーザー ID および重複または無効なディレクトリ URI の展開をチェックします。トラブルシューターツールは、展開内のすべてのノードとクラスタを確認します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)] を選択します。

ステップ 2 ユーザー ID とディレクトリ URI のステータスを [ユーザトラブルシュータ (User Troubleshooter)] 領域で監視します。システムチェックで何らかの問題が検出された場合は、[問題 (Problem)] 列に表示されます。

- すべてのユーザに一意のユーザー ID が設定されていることを確認します。
- すべてのユーザにディレクトリ URI が設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに一意のディレクトリ URI が設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに有効なディレクトリ URI が設定されていることを確認します。
- すべてのユーザに一意のメール ID が設定されていることを確認します。

(注) 重複したメール ID は、フェデレーションと Exchange Calendar の統合機能の両方のメールアドレスに影響を与えます。

ステップ 3 問題が生じたら、[ソリューション (Solution)] 列の [修正 (fix)] リンクをクリックすると、Cisco Unified Communications Manager の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration) の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウにリダイレクトされます。このウィンドウで、ユーザプロファイルを再設定することができます。

(注) ユーザプロファイルでのユーザー ID とディレクトリ URI フィールドは、LDAP Directory にマップされる場合があります。この場合は、LDAP Directory サーバで修正を行います。

次のタスク

何らかの問題が生じたら、ユーザー設定を Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで編集します。ユーザが LDAP ディレクトリから同期されている場合は、編集を LDAP ディレクトリで行う必要があります。

もっと詳細なレポートが必要な場合は、[CLI を介してユーザー ID とディレクトリ URI を検証する \(8 ページ\)](#)。

CLI を介してユーザー ID とディレクトリ URI を検証する

コマンド行インターフェースを使用して、重複したユーザー ID と重複したディレクトリ URI についてデプロイメントの詳細な検査を実行します。

手順

ステップ 1 コマンドラインインターフェイスにログインします。

ステップ2 次のコマンドを実行します。

- `utils` ユーザがすべて検証する - 重複したユーザー ID と重複したディレクトリ URI の両方についてシステムをチェックします。
- `utils` ユーザは `userid` を検証します - システムで重複するユーザー ID を確認します。
- `utils` ユーザが `uri` を検証します - システムで重複するディレクトリ URI を確認します。

CLI は、重複したディレクトリ URI やユーザー ID のレポートを返します。サンプルレポートについては、[ユーザー ID と ディレクトリ URI CLI 検証の例 \(9 ページ\)](#)

次のタスク

何らかの問題が生じたら、ユーザー設定を Cisco Unified Communications Manager の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで編集します。ユーザが LDAP ディレクトリから同期されている場合は、編集を LDAP ディレクトリで行う必要があります。

ユーザー ID と ディレクトリ URI CLI 検証の例

重複ユーザー ID と重複または無効なディレクトリ URI が設定されたユーザを識別する IM and Presence サービスのユーザを確認するための CLI コマンドは、`utils users validate { all | userid | uri }` です。

ディレクトリ URI は、ユーザ毎に一意である必要があります。複数のユーザに同じディレクトリ URI を使用することはできません。大文字と小文字の違いがある場合でも、使用できません。たとえば、`aaa@bbb.ccc` と `AAA@BBB.CCC` のように、大文字と小文字の違いはあっても、これらで 2 つの異なるディレクトリ URI を作成することはできません。

CLI とコマンドの説明の使用方法の詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。

ユーザー ID エラーを表示する CLI 出力例

```
Users with Duplicate User IDs
-----
User ID: user3
Node Name
cucm-imp-1
cucm-imp-2
```

ディレクトリ URI エラーを表示する CLI 出力例

```
Users with No Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
User ID
user4

Users with Invalid Directory URI Configured
-----
Node Name: cucm-imp-2
```

```
User ID   Directory URI
user1    asdf@ASDF@asdf@ADSF@cisco
```

```
Users with Duplicate Directory URIs
```

```
-----
Directory URI: user1@cisco.com
Node Name   User ID
cucm-imp-1  user4
cucm-imp-2  user3
```

ユーザー ID と ディレクトリ URI のエラー

Cisco IM and Presence Data Monitor サービスは、Active ディレクトリ エントリで、すべての IM and Presence Service クラスタの重複ユーザー ID および空または重複ディレクトリ URI をチェックします。重複ユーザー ID またはディレクトリ URI はクラスタ内では無効です。ただし、誤ってクラスタ間展開の異なるクラスタのユーザに同じユーザー ID または ディレクトリ URI 値を割り当てる可能性があります。

次の一覧は、発生する可能性があるエラーを示しています。これらのエラーを **Real-Time Monitoring Tool** で確認することができます。これにより、これらのそれぞれについてアラームまたは警告が発生します。

DuplicateDirectoryURI

このアラートは、ディレクトリ URI IM アドレス スキームが設定されている時、同じディレクトリ URI 値が割り当てられているクラスタ間展開内に複数のユーザが設定されていることを示します。

DuplicateDirectoryURIWarning

この警告は userID @ Default_Domain IM アドレス スキームが設定されている時、同じディレクトリ URI 値が割り当てられているクラスタ間展開内に複数のユーザが設定されていることを示します。

DuplicateUserid

このアラートは、クラスタ間展開内の別のクラスタで 1 人以上のユーザに割り当てられた重複ユーザー ID が設定されていることを示します。

InvalidDirectoryURI

この警告は、ディレクトリ URI IM アドレス スキームが設定されている時、クラスタ間展開内の 1 つ以上のユーザに空または無効なディレクトリ URI 値が割り当てられていることを示します。

InvalidDirectoryURIWarning

このアラートは userID@ Default_Domain IM Address スキームが設定されている時、クラスタ間展開内の 1 つ以上のユーザに空または無効な ディレクトリ URI 値が割り当てられていることを示します。

これらのアラーム条件に関連するユーザの特定情報を収集するには、**Command Line Interface** を使用して、その完全な一覧を確認してください。システムアラームは、影響を受けるユーザの詳細を提供しません。また、システム トラブルシュータは最大で 10 ユーザのみの詳細を表

示します。Command Line Interface を使用してユーザを確認し、アラームが発生しているユーザに関する情報を収集します。詳細については、『*Command Line Interface Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』を参照してください。



注意 影響を受けているユーザの通信の中断を避けるために、重複ユーザー ID および重複しているか無効なディレクトリ URI を解決するための適切な処置をとります。ユーザの連絡先情報を変更するには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』を参照してください。

エラーと推奨処置

次の表は、重複ユーザおよび重複または無効なディレクトリ URI のシステム確認をクラスター間展開で実行するとき起こる可能性のあるユーザー ID とディレクトリ URI のエラー状態を示します。発生するアラームとそのエラーを修正するための推奨措置が一覧表示されます。

表 1: ユーザー ID とディレクトリ URI のエラー状態および推奨されるアクション

エラー状態	説明	推奨措置
重複ユーザー ID	<p>重複ユーザー ID は、クラスター間展開内で別のクラスターの 1 人以上のユーザに割り当てられます。影響を受けるユーザが、クラスター間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム :</p> <p>DuplicateUserid</p>	<p>DuplicateUserid アラームが発生したら、問題を修正するために即時に対処してください。クラスター間展開内の各ユーザは一意的なユーザー ID が必要です。</p>

エラー状態	説明	推奨措置
重複したディレクトリ URI	<p>クラスタ間展開内の複数のユーザに同じディレクトリ URI 値が割り当てられます。影響を受けるユーザが、クラスタ間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム：</p> <ul style="list-style-type: none"> • DuplicateDirectoryURI • DuplicateDirectoryURIWarning 	<p>ディレクトリ URI IM アドレス スキームを使用するようにシステムが設定されていて、DuplicateDirectoryURI アラームが発生した場合、問題を修正するために即時に対処してください。各ユーザは一意のディレクトリ URI が割り当てられる必要があります。</p> <p><i>userID@Default_Domain</i> IM アドレス スキームを使用するように設定されていて、重複ディレクトリ URI が検出されると、DuplicateDirectoryURIWarning の警告が発生します。即時に対処する必要はありませんが、問題を解決することを推奨します。</p>
無効なディレクトリ URI	<p>展開内の 1 人以上のユーザに無効または空のディレクトリ URI 値が割り当てられます。<i>user @ domain</i> 形式でない URI は無効なディレクトリ URI です。影響を受けるユーザが、クラスタ間ピアに配置されている場合があります。</p> <p>関連アラーム：</p> <ul style="list-style-type: none"> • InvalidDirectoryURI • InvalidDirectoryURIWarning 	<p>ディレクトリ URI IM アドレス スキームを使用するように設定がされていて、次のアラームが発生した場合、問題を修正するために即時に対処します。InvalidDirectoryURI。</p> <p><i>userID@Default_Domain</i> IM アドレス スキームを使用するための設定がされており、無効なディレクトリ URI が検出された場合、InvalidDirectoryURIWarning の警告が発生します。即時に対処する必要はありませんが、問題を解決することを推奨します。</p>

ユーザのプレゼンス設定を表示

プレゼンスビューアを使用して、IM and Presence 対応のエンドユーザのプレゼンス設定の概要を表示します。プレゼンスビューアは、プレゼンスサーバの割り当て、連絡先、ウォッチャーなどの情報を提供します。

始める前に

Cisco AXL Web サービス、Cisco SIP Proxy サービス、および Cisco プレゼンスエンジンサービスはすべて Cisco Unified Serviceability で実行されている必要があります。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End Users)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、プレゼンス設定を表示するエンドユーザーを選択します。
- ステップ 3 [サービス設定 (Service Settings)] で、[ユーザのプレゼンスビューア (Presence Viewer for User)] リンクをクリックすると、エンド ユーザ プレゼンス ビューアが表示されます。ビューをカスタマイズしたい場合は、次の表を参照してください。

表 2: エンド ユーザ プレゼンス ビューアのフィールド

プレゼンスの設定	説明
[ユーザステータス (User Status)]	次のような、ユーザのプレゼンス ステータスを識別します。 <ul style="list-style-type: none"> • 応答可能 (Available) • 不在 • 取り込み中 • 連絡不可能 • [カスタム (Custom)]
[ユーザー ID (User ID)]	選択したユーザー ID を識別します。使用可能な場合は、ユーザの写真を表示します。 [送信 (Submit)] をクリックして、別のユーザー ID を選択することができます。
[プレゼンスステータスを見るユーザ (View From Perspective of)]	ユーザの視点からプレゼンス ステータスを見る際のユーザを指定します。これにより、指定されたユーザのプレゼンス ステータスが別のユーザ (ウォッチャ) にどのように見えるのか確認できます。この機能は、デバッグ シナリオで役立ちます (ユーザがプライバシー ポリシーを設定した場合など)。 最大 128 文字を使用できます。

プレゼンスの設定	説明
[連絡先(Contacts)]	<p>該当ユーザの連絡先リストの連絡先の数を表示します。</p> <p>[連絡先およびウォッチャ(Contacts and Watchers)] リスト領域の [連絡先(Contacts)] 見出しの横にある矢印をクリックして、特定ユーザの連絡先のプレゼンス ステータスを表示します。グループ名の横にある矢印をクリックして、グループ内の連絡先のリストを展開します。</p> <p>グループの一部ではない連絡先（グループのない連絡先）は、連絡先グループリストの下に表示されます。連絡先は複数のグループに属する場合がありますが、そのユーザの連絡先リストのサイズとしては1回しかカウントされません。</p> <p>エンドユーザに対して設定された連絡先の最大数を超えると、警告メッセージが表示されます。IM and Presence サービスの設定と連絡先の最大数の設定については、『<i>IM and Presence Administration Online Help</i>』を参照してください。</p>
[ウォッチャ(Watchers)]	<p>ウォッチャと呼ばれるユーザのリストを表示します。ウォッチャは、連絡先リストのユーザのプレゼンス ステータスを表示するために登録されます。</p> <p>[連絡先およびウォッチャ(Contacts and Watchers)] リスト領域の [ウォッチャ(Watchers)] 見出しの横にある矢印をクリックして、特定ウォッチャの連絡先のプレゼンス ステータスを表示します。グループ名の横にある矢印をクリックして、グループ内のウォッチャのリストを展開します。</p> <p>ウォッチャは複数のグループに属する場合がありますが、そのユーザのウォッチャリストのサイズとしては1回しかカウントされません。</p> <p>エンドユーザに対して設定されたウォッチャの最大数を超えると、警告メッセージが表示されます。IM and Presence サービスの設定とウォッチャの最大数の設定については、『<i>IM and Presence Administration Online Help</i>』を参照してください。</p>
[プレゼンス サーバの割り当て(Presence Server Assignment)]	<p>ユーザが割り当てられている IM and Presence サービス サーバを識別します。ハイパーリンクを利用してサーバの設定ページにハイパーリンクで直接移動し、詳細を確認できます。</p>
[プレゼンス アクセス アイコンの有効化(Enable accessible presence icons)]	<p>チェックボックスをオンにして、エンドユーザのプレゼンス アクセス アイコンを有効にします。</p>

プレゼンスの設定	説明
[送信(Submit)]	<p>選択すると、プレゼンス ビューアが実行されます。</p> <p>有効なプレゼンス情報を使用するには、ユーザがIM and Presence ノードに割り当てられている必要があります。これを機能させるためには、AXL、プレゼンス エンジン、プロキシサービスのすべてを IM and Presence サーバで実行している必要があります。</p>

プレゼンスの連携動作と制限事項

機能	制約事項
自動プレゼンス認証をオフにする	<p>プレゼンスリクエストの自動許可をオフにした場合、IM and Presence サービスは他のユーザの連絡先リストに存在するユーザの登録要求を自動的に許可することに注意してください。これは、同じドメイン内のユーザおよび異なるドメイン内のユーザ（フェデレーション ユーザ）に適用されます。次に例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザ A はユーザ B の在席状況の表示を登録します。自動許可は IM and Presence サービスでオフであり、ユーザ B はユーザ A の許可リストまたは拒否リストにありません IM and Presence サービスは UserB のクライアント アプリケーションにプレゼンス登録要求を送信し、クライアント アプリケーションは登録を許可または拒否するように UserB に求めます。 UserB は、プレゼンス登録要求を受け入れ、UserB は UserA の連絡先リストに追加されます。 UserA は、プレゼンス登録を許可するように求められることなく、UserB の連絡先リストに自動的に追加されます。これは、ユーザ B のポリシーが外部ドメインをブロックしている場合や、ユーザ B が「私に質問」している場合でも発生します。ユーザプロファイルで設定します。
ドメイン間フェデレーション-外部ドメインから受信したプレゼンス要求	<p>IM and Presence は、プレゼンスステータスが要求されているユーザのユーザポリシー設定にのみ依存します。ユーザが[私に質問]を選択した場合ユーザポリシーで、外部連絡先またはドメインの許可リストまたはブロックリストが追加されていない場合、IM and Presence はプレゼンス要求をエンドユーザに送信して承認します。</p>

